村づくりと統計

〃地方自治体―特に市町村―の仕事を活潑にし、住民のための役目を充分に果させるためには、行政、財政の面からみて、市町村を適当な大きさにする必要がある〃というわけで、昨年から町村の合併が各地で行なわれ本県でも新しい市が続々誕生し、或いは市にならずとも、町村間の合併が新しい町や村を作るために進んでいることは吾々の見聞きしているとおりであります。

その時に当つて我々の統計の仕事は新しい市づくり、新しい村づくりにどのように役立たせるべきかまたそのためには統計にたづさわる者はどうあるべきかということを考えてみなければならないと思うのであります。

まづわれわれの常識として統計資料にもとずく計画を立てることの重要性が挙げられます。村づくりの各種事業の計画のためには、是非とも基礎資料とする統計を提供し、或いは調査をして資料を作らなければならないと考えるのであります。更にその事業の進捗の途中においては進捗計画に基く仕事の進み具合が常に事業報告による業務統計にてらして検討されるべきでありましよう。また事業の成果をみるためには事業の直接なし得た結果を示す統計を作る必要はもちろんのこと、それが他の分野に及ぼした効果についても調査を行い、事業の姿の判定をする必要があると考えます。徒来はとかく計画のための統計、計画資料としての統計は作られても作られつぱなしであり、一方では計画が実行の段階になると、も早統計はかえりみられなくなつてしまうのが実情であります。しかしながら統計の重要性は管理のための基礎資料となることにおいてその大部分を果しうるのであります。仕事がはじまるとカンや経験がモノをいい出すというのではなく、仕事の管理も統計的管理によらなければならないと考えるのであります。

また、過去においては、多くの統計資料が作文の材料にこそなれ、実際の事業になると当事者があらためて調べなおさなければならないというようなことが何故に起つたかを考える必要がありましよう。これはただに村づくりのみならず国の政治においても会社の営業方針についてもいえることだと考えるのであります。その場合、これを解決する方法は、統計を作成する人が計画に使う身になつてみること、管理をする身になつてみることが第一であると考えるのであります。かつて、統計をやつていた者はコチコチだということが言われたことがあつたのでありますが、少くとも村づくりの衝に当る身となつて考えることを怠らずに統計を作るならば、このような悪口は通用しないことになるはずであると考えるのであるます。従来行政と統計の関係とか統計を行政に利用せよとかいわれたのでありますが、統計と行政は一体のものであり事業をやることと統計を作ることは別のものではないという考え方こそ村づくりにたづさわる統計人の考えでなければならないと思うのであります。